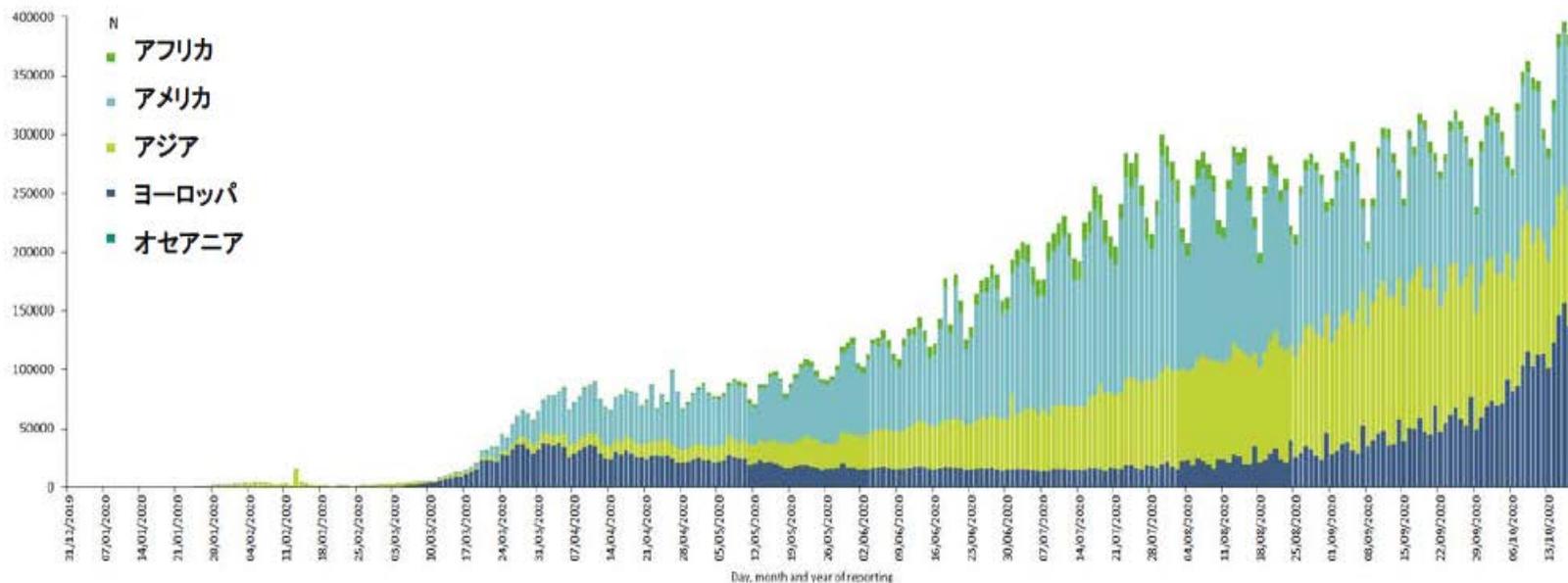


感染症対応の基本的知識

広島大学病院 感染症科 大毛宏喜

今後の見通しは？

- 地域ごとに流行の波が異なる
- ウイルスの変異による重症度の違いが明らかになりつつある

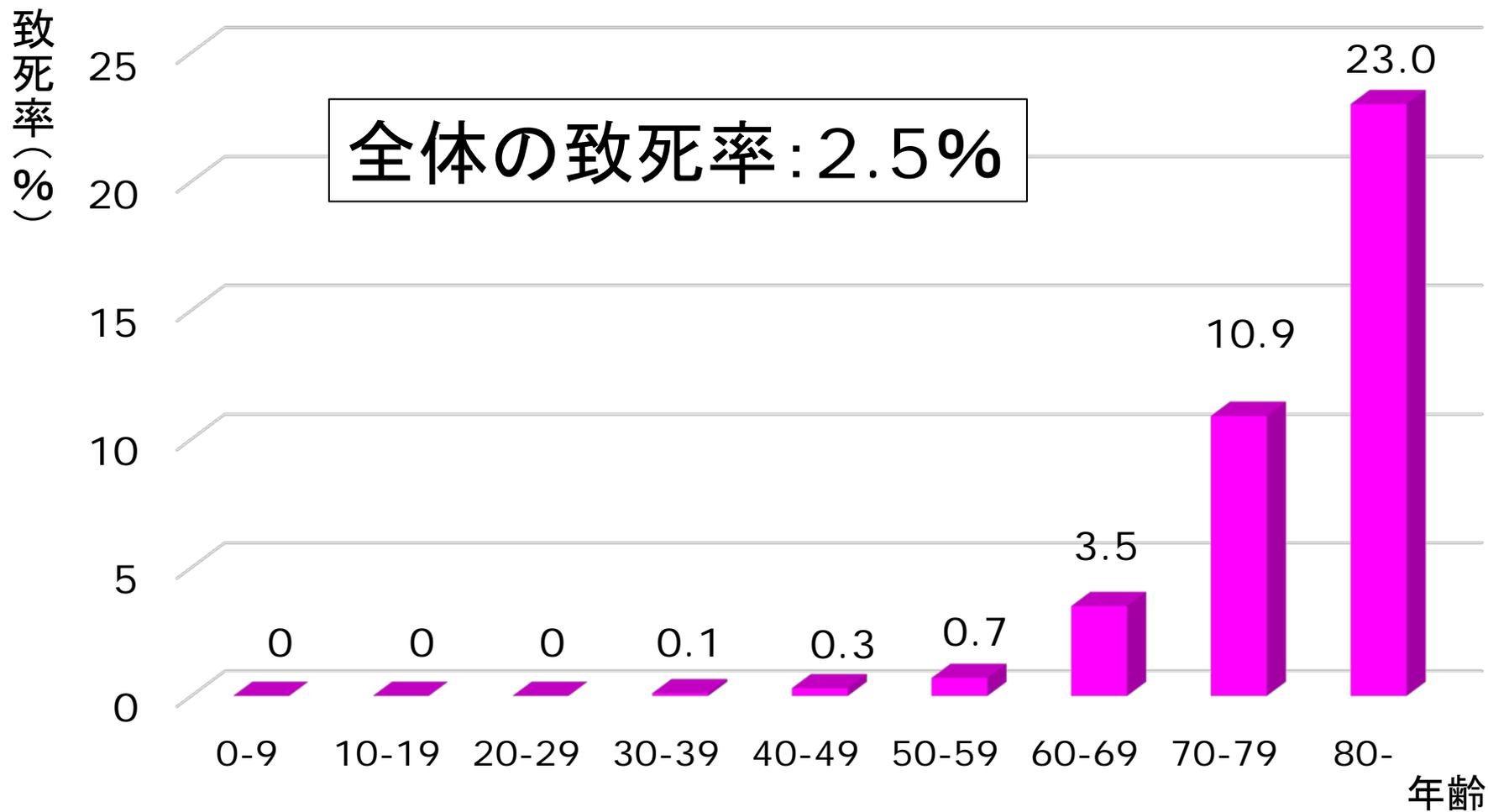


我が国では？

- 散発的な集団発生を繰り返しながら長引くことが予想される



我が国の年齢別致死率



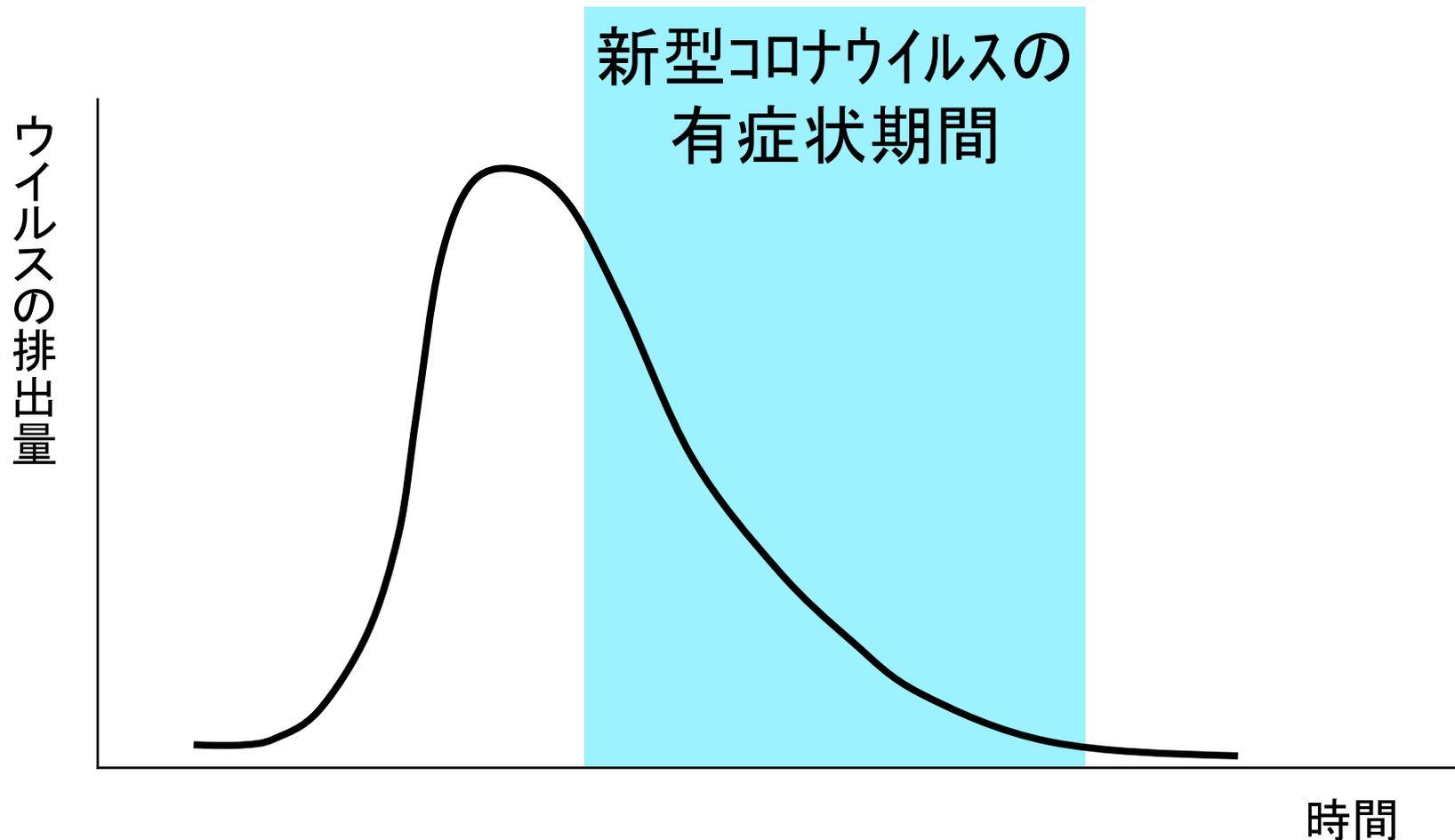
2020年8月5日現在

感染リスクが高い条件

- 閉鎖空間
- 近距離での接触
- マスクなし
- 一定時間の会話



感染性を有する時期

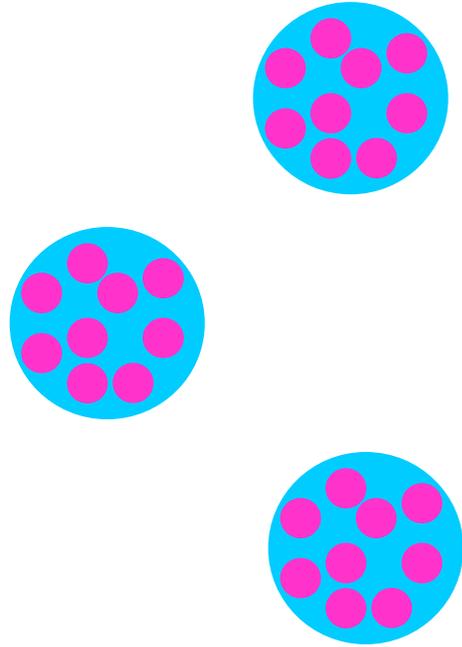


感染の4割は無症状者から

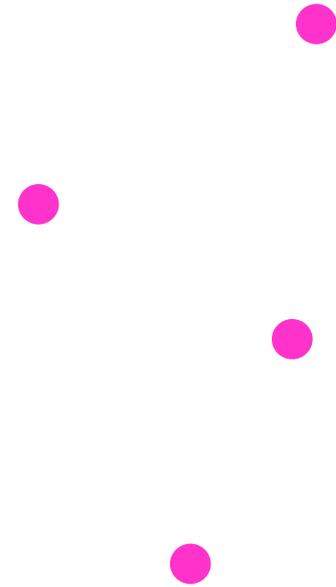
- 感染しても無症状の人がいる
- 発症の1～3日前から感染性がある

発熱や症状で
感染性の有無を判断できない

「飛沫感染」と「空気感染」



飛沫



空気中に浮遊

ウイルスの侵入場所は3カ所

1. 口

2. 鼻

3. 目

入り方は2種類

1. 人の口から出たしぶき(飛沫)が入る
 2. 手についたウイルスで顔を触って入る
-

ここまでのまとめ

- 4条件が揃った時に高率に感染する
 - 誰がウイルスを放出しているかはわからない
 - 鼻と口をマスクでカバーするのが良い
-

美容師の感染とマスクの有効性

- 美容師と客の全員がマスクを着用していた所、139名中感染者ゼロ



応援に行って感染しないために

- マスクを正しく着用する
 - ケアの内容に応じた個人防護具を選択する
 - 個人防護具を脱ぐ時が大切
 - 手指衛生のタイミングを理解する
 - 正しい手指衛生を行う
-

換気や環境消毒は？

- エアロゾルが発生する場面でない限り、過剰な対応は不要
 - 環境消毒に時間をかけるよりは、汚染されている前提で自分の手を汚染から守る方が現実的
-

支援現場での個人防護具

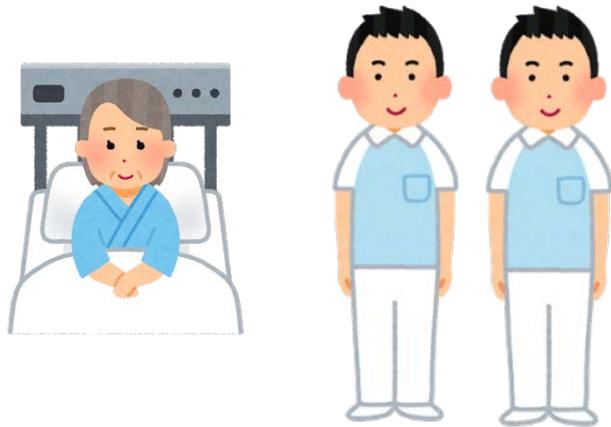
- エアロゾルが問題になる場面は多くないため、飛沫対策はサージカルマスクで
 - アイガードは検体採取の時に着用
 - 環境に触れる際は手袋を着用
 - 身体的接触を伴うときはガウン着用
 - シューズカバーは不要
-

集団発生現場の課題

- 施設利用者・職員の双方に感染者が多数いる
 - PCR陰性者も今後陽性になる可能性がある
-

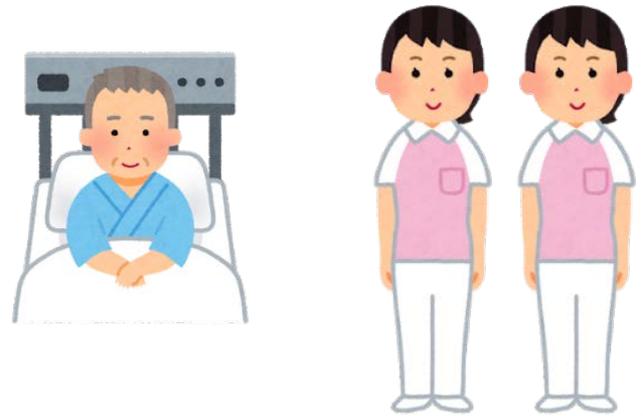
人の区分けと必要業務

PCR陰性者



症状が出たら
すぐにPCR

PCR陽性の軽症者



入院の必要性判断

感染対策のまとめ

- 支援先のゾーニングを確認する
 - PPE着脱・手指衛生の手技を再確認する
 - PCR陰性者エリアの職員・利用者の体調変化に注意
-

自身の健康管理

□ 職員がマスクを外す場面に注意する

- 食事・休憩時間
- 歯磨きをする洗面所
- 更衣室



□ 不適切なマスク着用はお互いに声をかける

□ 勤務時間外でもリスクの高い行動を控える

被支援側職員の状況

- 使命感・責任感で全力疾走している
 - 不安や不満を口にはいけない雰囲気
 - 自宅に帰らず、施設内や車で寝泊まり
 - PCR陽性で多少症状があっても我慢
 - 衣食住の問題は自己犠牲で対応

話ができる関係を構築することが重要

応援先での注意点

- 完璧を求めない
 - 限られたスペース・物資・人員で可能な範囲の対策を取る
 - 有症状者の早期発見に努める
-

まとめ

- 不明な点は感染症支援チームに連絡を
 - チーム間のコミュニケーションが必須
 - 応援側に感染者が出ないようにベストを尽くす
-